



1. 第13回 ITER 理事会開催

2013年11月20日および21日にフランスのサン・ポール・レ・デュランスでITER機構のガバナンス機関であるITER理事会が開催されました。この2日間の会合では、議長である高津英幸氏(日本)の下、7つの極全て-中国、欧州連合、インド、日本、韓国、ロシア、および米国-からの上級代表が一堂に会しました。

理事会は、計画の中で主要なマイルストーンとなる、サイト内における主要な土木作業のための契約が締結されたことに留意しました。これらの産業界のパートナーとの契約には、トカマク装置並びに隣接した建屋の建設およびエンジニアリング作業が含まれています。また、全7極は、超伝導コイル、真空容器、クライオスタットなど、鍵となる機器の製造がそれぞれの企業において着実に進展していることを報告しました。

理事会は、2年に1回、独立機関が行う内部評価からの事業の運営およびガバナンスに関する改革の要求に対応しました。理事会はITER計画がスケジュール遅延等の直ちにに取り組む必要のある課題に直面しているという評価人の見解に同意しました。このため、行動計画が1月半ばに示され、2月初めの臨時ITER理事会において評価されます。

理事会は、第1期はカーボン製ダイバータを用い、第2期にタングステン製ダイバータに交換する従来の計画に代わり、運転初期からタングステン製ダイバータを用いるというITER機構の提案を承認しました。この重要な決定は、コスト削減に寄与するもので、電子物理研究所(ロシア、サントペテルブルク)および欧州のトカマク装置JET(英国)における実験の成功など、タングステン製ダイバータに関する2年以上の研究開発成果に従って下されました。

理事会はまた、プラズマ全体の安定性を改善する真空容器内コイルの設計および試作の開発の進捗に留意し、これを計画のベースラインに含めるとのITER機構からの提案を承認しました。

ITER機構はITERの最も大きく重い規模の機器のレプリカを800トントラックに積み込み、104kmの旅程を輸送して物理的耐久性の試験を行う試験輸送の成功を報告しました。この先駆的成功は2014年夏から始まる実際のITER機器輸送に向け、道を開くものです。

ITER理事会はギュンス・リー氏を2014年1月の初めから1年間の任期でITER理事会の副議長として、オレグ・フィラトフ氏および鎌田裕氏をそれぞれITER理事会の科学技術諮問委員会(STAC)の議長および副議長として、チアシュ・ティエン氏およびアンドラス・シーグラー氏をそれぞれITER理事会の運営諮問委員会(MAC)の議長および副議長として選出しました。またマウリッツィオ・ガスパロット氏がテストブランケット・モジュール計画委員会(TBM-PC)の議長として再任され、ボン・グエン・ホ

ン氏が副議長として任命されました。また、プレマン・ディナラ氏が会計検査委員会の議長として任命されました。

理事会は、退任する議長や副議長の貢献に感謝しました(図1, 2)。

2. モナコ ITER 国際核融合エネルギーデー (MIIFED2013) 開催

12月3日~5日の3日間、モナコ公国のグリマルディ・フォーラム会議場において、ITER機構の主催、モナコ公国後援のもとモナコITER国際核融合エネルギーデー(MIIFED)2013が開催されました。モナコ大公アルベール2世の臨席のもと本島ITER機構長による開会挨拶、アルベール大公のオープニングスピーチにより会議がスタートしました(図3)。MIIFEDは、ITER計画や核融合研究開発に対する産業界の理解・参加を促進することを主な目的として開催され、今回は2010年に続いて2回目であり、欧州を中心にITER参加各極から約400名の参加者がありまし



図1 第13回 ITER 理事会議事風景。



図2 日本の理事会メンバー。



図3 MIIFED でのアルベール大公のご講演。

た。2日目以降はラウンドテーブルと呼ぶパネル討論形式で、ITER 機器の調達に参画する各極産業界を中心に政府、自治体、研究機関、極内機関関係者が ITER 機器の製作技術から原型炉、世界のエネルギー問題まで、幅広いテーマで議論を行いました。日本からは、藤本文部科学審議官、高津 ITER 理事会議長らが登壇しました。またロビーでは企業、自治体、極内機関の展示ブースが多数設けられ、情報交換、意見交換の場となりました。

3. カナちゃん文庫の贈呈式がマノスク国際学校にて開催

多数の ITER 機構職員が居住するマノスク市にあるマノスク国際学校に那珂研究所から日本語の図書を寄贈しその贈呈式が行われました。11月にマノスク市を訪問した原子力機構那珂研 森所長から、日本語セクション生徒、先生および保護者の見守るなか、“カナちゃん文庫”の目録(509冊分)をマノスク国際学校のベルナル・フロンザック校長先生に手渡しました(図4)。日本語セクション生徒からは、お礼の手紙をいただきました。

4. ITER 計画の展示と ITER 機構職員募集説明会の実施

原子力機構では、我が国から ITER 機構への職員の応募を促進する活動を行っています。その一環として、9月の日本原子力学会(八戸工業大学)、機械学会(岡山大学)、12月のプラズマ・核融合学会(東京工業大学)、低温工学・超電導学会(名古屋市・ウインクあいち)の4つ展



図4 カナちゃん文庫の贈呈式 マノスク国際学校にて。



図5 低温工学・超伝導学会における ITER 展示ブースの様子。

示会に出展しました。展示ブースでは、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明するとともに、ITER 機構職員募集および登録の案内を行いました。ブースには、3Dテレビや ITER 模型(100分の1スケール)、核融合関連施設の写真集、パンフレット等を展示しました。展示ブースは多くの学会参加者に興味をもってもらうことができ、ITERの進捗状況から調達機器の技術的な部分まで、多くの質問が寄せられました。また、学会会場のため参加者には学生も多く、熱心に説明を聴いたり、研究所の見学に興味をもってくれるなど、若い世代にも核融合研究についてアピールすることができました(図5)。これらの詳細については那珂 ITER ウェブサイト(<http://naka-www.jaea.go.jp/ITER/index.html>)の「ITER 機構職員募集説明会について」をご覧ください。

(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)